

序

本書は、先に刊行した『王朝文学と通過儀礼』（竹林舎）の発展として企画したものである。『王朝文学と通過儀礼』では、和歌文学や物語文学の世界における通過儀礼の様々な意味を明らかにすることを企図した。その成果を踏まえつつ、本書では『源氏物語』と通過儀礼（本書の見出しには「人生儀礼」の語を用いる）の関わりに焦点を絞り、さらなる掘り下げを目指している。『源氏物語』における通過儀礼（人生儀礼）の諸相、あるいは主要人物に即した儀礼の語られ方を通覧することで、作品世界の成り立ちに迫ることができればと考える。さらに『源氏物語』における儀礼歌についても、本格的な考察を目指す。物語中の儀礼歌の問題は、先の『王朝文学と通過儀礼』巻末資料（『源氏物語』通過儀礼一覧）長谷川範彰等）の作業過程において浮上してきたことである。儀礼の描写の意味するところを考えることと軌を一にして、儀礼の歌のありように眼を向けること。そのことをとおして、『源氏物語』の作品世界の骨組みが見えてくるに違いない。

以上の意図に基づき、本書は以下のように構成した。

第一章「源氏物語における人生儀礼」では、生誕・袴着・元服・裳着・結婚・算賀・葬送・法会などの諸相を軸に、『源氏物語』における人生儀礼の意味合いを浮き彫りにする。あわせて『落窪物語』『うつほ物語』そして平安後期物語との比較、さらには源氏物語古注釈や江戸期の古典学から、『源氏物語』の儀礼のあり方を浮き彫りにする。

第二章「源氏物語の人々と儀礼」では、『源氏物語』の主要人物に即した儀礼のあり方について考察する。そのことをとおして、儀礼の枠組みと『源氏物語』の人物造型や主題性との関わりを解明する。

第三章「源氏物語と儀礼の歌」は二部からなる。一つ目は『源氏物語』にみる儀礼の歌を考えるもの。二つ目は、

儀礼歌の歴史から『源氏物語』を考えるもの。物語研究と和歌研究の双方向的なアプローチによって、『源氏物語』の表現世界の成り立ちの機微に触れることができると考える。

なお、巻末資料として『源氏物語』人生儀礼歌一覧——付・八代集にみる参考歌』を載せた。

儀礼を軸にした分析を通じて、第一章から第三章までの諸論が響きあい、『源氏物語』の語りや歌の表現性、さらには作品世界の形成の仕組みが明らかにされていくことが期待される。本書が『源氏物語』研究の新たな地平を開くことを願ってやまない。

力の籠もったご論考をお寄せくださった執筆者各位に感謝申し上げますとともに、出版を快くお引き受けくださった武蔵野書院・前田智彦社長と、編集を御担当くださった福澤香南美氏に深甚よりお礼を申し上げます。

二〇二二年一〇月

小嶋 菜温子
長谷川 範彰

目次

序 小嶋菜温子
長谷川範彰

幻の「源氏物語絵巻」のことなど 『源氏物語』と人生儀礼をめぐって… 小嶋菜温子

第一章 源氏物語における人生儀礼

◆生誕◆

生誕 方法としての産養 袴田 光康

◆袴着◆

袴着 「蛭の子が齡」の比喻をめぐって 秋澤 互

◆元服◆

元服 その背景にある陰陽道 深澤 瞳

◆裳着◆

裳着 紫の上の「髪削ぎ」「新枕」との関連から 川名 淳子

◆結婚◆	「宿木」巻、落葉宮の代作歌に着目して……………	星山 健
◆算賀◆	算賀 光源氏四十賀と朱雀院五十賀の相違を中心に……………	池田 節子
◆葬送◆	葬送 『西宮記』との比較から……………	松岡 智之
◆法会◆	法会 『落窪物語』の法会との対比から……………	園山 千里
* * *		
◆落窪物語・うつほ物語から◆	源氏物語における儀礼 落窪物語、うつほ物語との比較……………	大井田晴彦
◆平安後期物語から◆	平安後期物語との比較……………	倉田 実
	『夜の寝覚』『浜松中納言物語』『狭衣物語』『とりかへばや』の通過儀礼	
◆源氏物語古注釈から◆	源氏物語古注釈における通過儀礼注の変遷……………	新美 哲彦
◆江戸期の古典学から◆	儒学と堂上古典学の邂逅……………	海野 圭介
	『源氏外伝』の説く『源氏物語』理解を端緒として	
第二章 源氏物語の人々と儀礼		
◆帝◆	帝の葬送儀礼 桐壺院の「御国忌」をめぐる……………	陣野 英則
◆后妃◆	『源氏物語』后妃の儀礼……………	本橋 裕美
	入内・仏教儀礼・中宮大饗をめぐる	
◆光源氏◆	「よかさまに行く」儀礼 算賀の宴の時空間……………	堀 淳一
◆紫の上◆	紫の上をめぐる儀礼 儀礼の対象および主体という観点から……………	吉野 瑞恵

◆玉鬘◆

玉鬘の儀礼 紫の上の儀礼の反照として……………今井 久代

◆夕霧◆

夕霧の通過儀礼 雲居雁との結婚を中心に……………青木 慎一

◆明石の君◆

御湯殿の儀の明石君……………竹内 正彦

「若菜上」巻における明石の町の生誕儀礼をめぐる

◆女三の宮・落葉の宮◆

『源氏物語』女三宮の裳着と機能……………横溝 博

姫君たちの裳着の場面に着目して

◆柏木◆

柏木と通過儀礼……………小山 清文

◆薫・匂宮◆

『源氏物語』「宿木」巻における二つの結婚……………有馬 義貴

薫と匂宮の社会的身分と相互意識

◆中の君◆

中の君 秘密裏に結ばれた腹帯……………井野 葉子

◆浮舟◆

浮舟と儀礼 〈奪われた〉婚礼ということ……………鈴木 裕子

第三章 源氏物語と儀礼の歌

◆源氏物語にみる儀礼の歌◆

『源氏物語』の儀礼と歌……………高橋 亨

明石姫君誕生の儀礼と和歌……………植田 恭代

玉鬘裳着の日の歌 『源氏物語』における儀礼歌の問題……………吉井美弥子

源氏物語の儀礼と和歌 裳着を中心に……………久富木原玲

『源氏物語』の「後朝の別れの歌」と「後朝の文の歌」……………長谷川範彰

源氏物語における儀礼の歌……………高木 和子

* *

◆儀礼歌の歴史からみる源氏物語◆

儀礼と抒情 和歌の機能……………浅田 徹

『源氏物語』からみる儀礼歌の表現史…………… 西山 秀人

裳着の和歌と『源氏物語』…………… 谷 知子

葬送儀礼関係歌の流れから見る『源氏物語』…………… 松本真奈美

時を経た哀傷歌と『源氏物語』…………… 高橋 由記

幻巻を読む 儀礼歌としての屏風歌の視点から…………… 高野 晴代

卷末資料

『源氏物語』 人生儀礼歌 一覧——付・八代集にみる参考歌

長谷川範彰・青木 慎一・金子 結子・北山ゆかり・中嶋 政太

執筆者紹介